

2021年（令和三年） 9月3日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階
ホームページ <https://oil-info.leej.or.jp>

■ 概況

8/19～8/25のNYMEX・WTI先物市場は、62.32～68.36ドルの範囲で推移した。

8月26日は、世界的な感染再拡大に伴う経済回復停滞の見通しから、石油需要の先行き懸念が高まり、4営業日ぶりに反落した。また、米金融緩和策の早期終了観測やメキシコの海上石油生産施設の操業再開報道も、市場の重しとなった。10月限の終値は前日比0.94ドル安の67.42ドル。

週末27日は、メキシコ湾中央部での熱帯低気圧発生で、石油生産施設が操業を停止したとの報道を受け、反発した。また、パウエル連邦準備制度理事会(FRB)議長の金融緩和終了に関する発言は、織り込み済み、想定の範囲内だとして、大きな影響はなかった。なお、米国内の稼働中の石油掘削装置は前週末比5基増の410基。10月限の終値は前日比1.32ドル高の68.74ドル。

週明け30日は、メキシコ湾岸の熱帯低気圧はハリケーン「アイダ」に発達、ルイジアナ州に上陸、石油施設への影響は拡大しており、石油供給ひっ迫への警戒感から続伸した。また、市場の関心は、9月1日開催予定のOPECプラスの閣僚会合における減産緩和の見直しに移っており、様子見のムードもあった。10月限の終値は前日比0.47ドル高の69.21ドル。

31日は、中国の製造業景況感の5か月連続の悪化の報告を受け、景気回復への警戒感が高まり、反落した。昨日までは、米国メキシコ湾のハリケーン襲来で供給不安があったが、一転、台風被害による需要減少が意識され、値下がり要因となった。10月限の終値は前日比0.71ドル安の68.50ドル。

9月1日は、OPECプラスの閣僚級委員会で、現行の減産緩和方針が維持されたことを好感して小反発した。ただ、米国エネルギー情報局(EIA)の米国石油在庫統計で、原油在庫は4週連続で減少したが、ガソリン在庫は市場予想に反し増加したことで、製品需要の鈍化が懸念された。10月限の終値は前日比0.09ドル高の68.59ドル。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(10月渡し)は、8月19日～25日の間65.50～69.79ドルの範囲で推移した。8月26日70.40ドル、27日70.60ドル、30日71.30ドル、31日71.70ドル、9月1日70.30ドルで推移した。

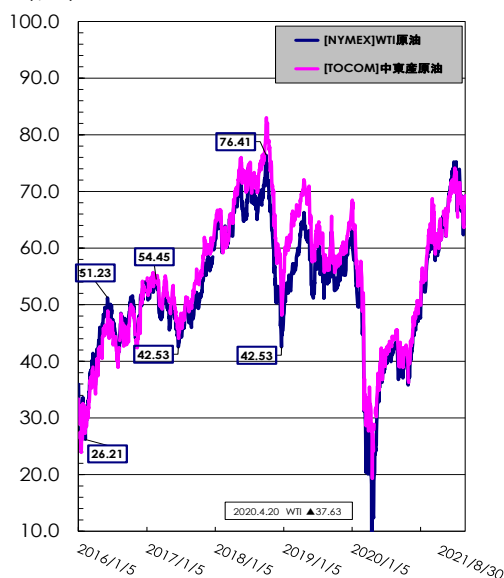
為替は8月19日～25日の間109.77～109.99円の範囲で推移した。8月26日110.07円、27日110.00円、30日109.74円、31日109.90円、9月1日110.19円で推移した。

財務省が8月27日に発表した貿易統計(速報・旬間)によると、8月上旬の原油輸入平均CIF価格は、50,397円/klで、前旬比425円安、ドル建て72.96ドルで前旬比0.27ドル安、為替レートは1ドル/109.83円。

そのような中で、8月30日時点の小売価格は、ガソリンが前週(8月23日)比0.4円の値下がり、軽油も同0.4円の値下がり、灯油は同4円の値下がり(18%ベース)だった。ガソリンは2週連続の値下がり、軽油も2週連続の値下がり、灯油は2週連続の値下がりだった。この週(8月第5週)の原油コストは大きく値上がりし、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに、全社前週比3.0円の引き上げとなった模様。

原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	8/22 ~ 8/28	2,993 ▲ 27	▲ -
	トッパー稼働率 (%)	"	77.8 ▲ 0.7	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	8/28	10,207 ▼ -442	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	8/30	69.26 ▲ 5.66	▲ 23.7
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	8/30	69.21 ▲ 3.57	▲ 26.6
	原油CIF単価 (\$/bbl)	8月上旬	72.96 ▼ -0.27	▲ 29.51
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	50,397 ▼ -425	▲ 21,395
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	109.83 ▲ 0.51	▼ -3.72
	外国為替TTSレート (¥/\$)	8/30	110.74 ▲ 0.11	▼ -4.38

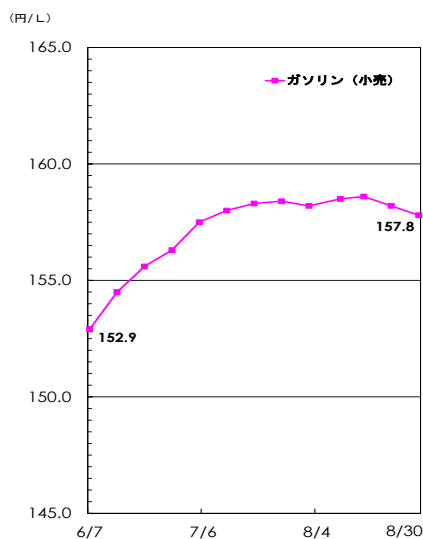
(\$/b)



(単位：千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	8/22 ~ 8/28	843 ▲ 8	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	855 ▲ 160	▼ -	
	輸出	"	0 ▼ -40	▼ -	
	在庫	8/28	1,966 ▼ -11	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	8/24 ~ 8/30	64.7 ▼ -0.8	▲ 20.2	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	8/24 ~ 8/30	63.9 ▲ 1.7	▲ 22.9
		(TOCOM/中部)	8/30	64.7 ▲ 0.9	▲ 22.3
	小売 [週動向] (資工庁公表)	8/30	157.8 ▼ -0.4	▲ 22.6	

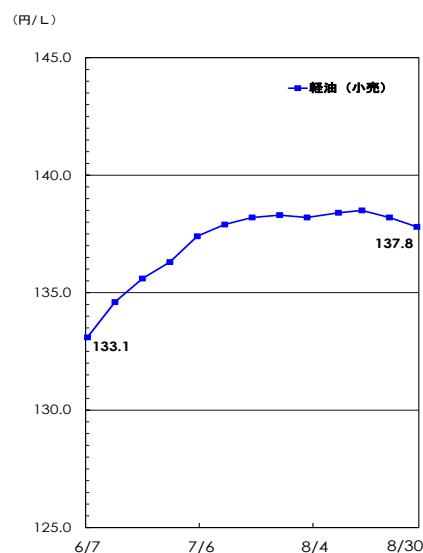
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位：千kl、円/%)

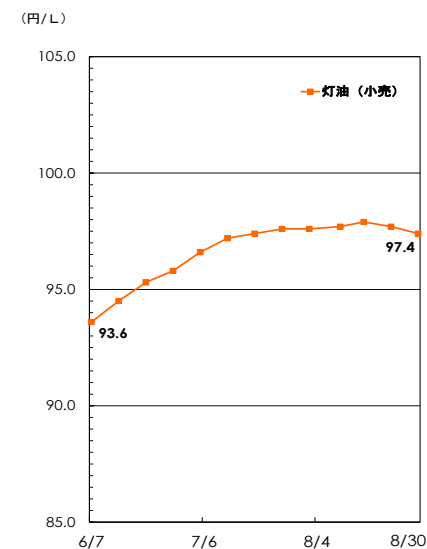
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	8/22 ~ 8/28	751 ▲ 33	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	618 ▲ 181	▼ -	
	輸出	"	226 ▲ 155	▲ -	
	在庫	8/28	1,994 ▼ -94	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	8/24 ~ 8/30	65.4 ▼ -1.3	▲ 18.4	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	8/24 ~ 8/30	65.5 ▲ 0.4	▲ 16.6
		(TOCOM/中部)	8/30	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	8/30	137.8 ▼ -0.4	▲ 22.1	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位：千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	8/22 ~ 8/28	218 ▲ 52	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	150 ▲ 59	▲ -	
	輸出	"	0 → 0	▼ -	
	在庫	8/28	2,154 ▲ 67	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	8/24 ~ 8/30	64.9 ▼ -1.0	▲ 18.0	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	8/24 ~ 8/30	61.2 ▲ 1.0	▲ 18.3
		(TOCOM/中部)	8/30	62.5 ▲ 0.5	▲ 17.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	8/30	97.4 ▼ -0.3	▲ 16.4	



■ 関連情報

1 海外/原油

9月1日のNYMEXのWTI先物原油は小幅に反発した。同日WEB開催のOPECプラスの閣僚監視委員会で、8月以降年内に各月40万b/dの減産緩和を予定通り行うことを確認したことが好感された。ただ、すでに織り込み済みとする見方もあった。他方、同日発表の米国エネルギー情報局(EIA)の米国石油在庫統計は、原油在庫は720万バレル減と市場予想(310万バレル減)を大きく上回る取り崩しだったが、ガソリン在庫が130万バレル増とドライブシーズンにもかかわらず市場予想(169万バレル減)に反する積み増しだったことから、石油製品の需要鈍化が懸念された。なお、熱帯低気圧となっ

たハリケーン「アイダ」の被害からの復旧は時間を要しており、供給障害の発生よりも、石油需要の一時的減少が懸念された。10月限の終値は前日比0.09ドル高の68.59ドル、11月限の終値は0.06ドル高の68.32ドル。

EIAによると、8月30日時点のガソリンの小売価格は、前週比0.6セント値下がり1ガロン3.139ドル(91.7円/ℓ)、ディーゼルは同1.5セント値上り3.339ドル(97.6円/ℓ)となった。ガソリンは2週連続の値下がり、ディーゼルは4週ぶりの値上がりとなった。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2021年8月22日～8月28日に休止したトッパー能力は13.5万バレル/日で、前週に対して8.6万バレル/日増加した(全処理能力は345.8万バレル/日)。

原油処理量は299.3万klと、前週に比べ2.7万kl増加。前年に対しては38.1万klの増加。トッパー稼働率は77.8%と前週に対して0.7ポイントの増加、前年に対しては11.1ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてジェットが減産、その他の油種で増産となった。ガソリン/1.0%増、ジェット/8.3%減、灯油/31.6%増、軽油/4.5%増、A重油/30.7%増、C重油/11.6%増。今週のC重油の輸入は0.5万kl(前週比0.5万kl増)。軽油の輸出は22.6万kl(前週比15.5万kl増)。

出荷(輸入分を除く)は前週比でジェット、C重油が減少し、その他の油種で増加した。前年比では灯油、A重油、C重油が増加し、その他の油種で減少となった。ガソリンの出荷は85.5万kl(対前週22.9%増)と2週振りに増加した。ジェット3.8万kl(対前週17.2%減)、灯油15.0万kl(対前週64.8%増)、軽油61.8万kl(対前週41.2%増)、A重油18.8万kl(対前週14.1%増)、C重油15.1万kl(対前週29.1%減)。

(単位:千kl)

	今週 (8/22 ~ 8/28)	前週 (8/15 ~ 8/21)	前週比	
ガソリン	855	695	▲ 160	(23%)
ジェット燃料	38	46	▼ -8	(-17%)
灯油	150	91	▲ 59	(65%)
軽油	618	437	▲ 181	(41%)
A重油	188	165	▲ 23	(14%)
C重油	151	213	▼ -62	(-29%)
合計	2,000	1,647	▲ 353	(21%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

8月28日時点の在庫は、ジェット、灯油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対しては灯油が減少し、その他の油種で増加となった。

ガソリンは196.6万kl、前週差1.1万kl減。前年に対しては13.0万kl多い。

灯油は215.4万kl、前週差6.7万kl増。前年に対しては39.8万kl少ない。

軽油は199.4万kl、前週差9.4万kl減。前年に対しては17.5万kl多い。

A重油は73.6万kl、前週差0.3万kl減。前年に対しては0.6万kl多い。

C重油は191.1万kl、前週差0.2万kl減。前年に対しては1.7万kl多い。

(単位:千kl)

	今週 (8/28)	前週 (8/21)	前週比	
ガソリン	1,966	1,977	▼ -11	(-1%)
ジェット燃料	842	809	▲ 33	(4%)
灯油	2,154	2,087	▲ 67	(3%)
軽油	1,994	2,088	▼ -94	(-5%)
A重油	736	739	▼ -3	(-0%)
C重油	1,911	1,913	▼ -2	(-0%)
合計	9,603	9,613	▼ -10	(-0.1%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

8月24日～30日の指標原油価格は前週(8月17日～23日)比で大きく値上がりし、為替レートもわずかに円安で、円建ての原油コストは大きく値上がりしたと見られる。

次週(9/2～9/8)の大手元売卸価格は、産油国国営石油会社の8月積み原油の割増金もあり、ガソリン・灯油・軽油ともに、全社前週比3.0円の値上げとなった模様。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

8月24日～30日の製品スポット市況は、8月17日～23日平均と比べ、先物取引は値上がり、海上の灯油が横ばいで、それ以外の取引・油種で値下がりした。

直近週(8/24～8/30)の陸上スポット価格平均値は、前週(8/17～8/23)比で、ガソリンは0.8円の値下がり、灯油は1.0円の値下がり、軽油は1.3円の値下がりだった。同期間(8/24～8/30)において、ガソリンは118～119円台で値下がり後わずかに値上がり、灯油は64～65円台で値下がり後わずかに値上がり、軽油は65～66円台で大きく値下がり後わずかに値上がりして推移した。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近週(8/24～8/30)に、前週(8/17～8/23)比で、ガソリンは0.9円の値下がり、灯油は横ばい、軽油は1.4円の値下がりだった。海上スポット価格は、同期間(8/24～8/30)に、ガソリンは119～120円台で値下がり、灯油は62～63円台で大きく値上がり、軽油は65～67円台で大きく値下がりして推移した。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは1.7円の値上がり、灯油は1.0円の値上がり、軽油は0.4円の値上がりだった。先物価格は、同期間(8/24～8/30)に、ガソリン116～118円台で大きく値上がり、灯油60～62円台で大きく値上がり、軽油64～66円台で大きく値上がりして推移した。

(RIM) (単位: 円/%)

[陸上ローリー 4地区平均]	今週 (8/24～8/30)	前週 (8/17～8/23)	前週比
	レギュラー	64.7	65.5
灯油	64.9	65.9	▼ -1.0
軽油	65.4	66.7	▼ -1.3

(TOCOM) (単位: 円/%)

[期近物/終値 [平均]]	今週 (8/24～8/30)	前週 (8/17～8/23)	前週比
	レギュラー	63.9	62.2
灯油	61.2	60.2	▲ 1.0
軽油	65.5	65.1	▲ 0.4

※上記価格は税抜き価格

参考値 (8/24～8/30実績値) (単位: 円/%)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▼ -0.8	▲ 1.7	▲ 0.4
灯油	▼ -1.0	▲ 1.0	→ 0.0
軽油	▼ -1.3	▲ 0.4	▼ -0.4
A重油	▼ -1.4		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バーージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

8月30日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週(8月23日)比0.4円安の157.8円、軽油も同0.4円安の137.8円、灯油は18%ペースで同4円安の97.4円(1%ペースでは同0.3円安の97.4円)。ガソリンは2週連続の値下がり、軽油も2週連続の値下がり、灯油も2週連続の値下がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは11府県、横ばいは2県、値下がり34都道府県だった。全国最安値は150.7円の埼玉県(同0.9円安)、その次は、151.9円の宮城県(同0.5円安)、他方、最高値は169.1円の長崎県(同1.6円高)だった。最も値上がりしたのも同1.6円高の長崎県(169.1

円)で、横ばいは新潟県と山口県の2県、最も値下がりしたのは同1.8円安の島根県(155.9円)だった。

今週(8月24日～30日)は、指標原油価格は大きく値上がりし、為替レートもわずかに円安で、円建ての原油コストは大きく値上がりしたと見られる。次週(9月2日～8日)適用の元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社前週比3.0円の値上げとなった模様。次回調査時(9月6日)のガソリンの小売価格は値上がり予想される。

(資工庁公表) (単位: 円/%)

[週動向]	今週 (8/30)	前週 (8/23)	前週比	直近高値
	レギュラー	157.8	158.2	▼ -0.4
灯油	97.4	97.7	▼ -0.3	08/8/11 132.1
軽油	137.8	138.2	▼ -0.4	08/8/4 167.4

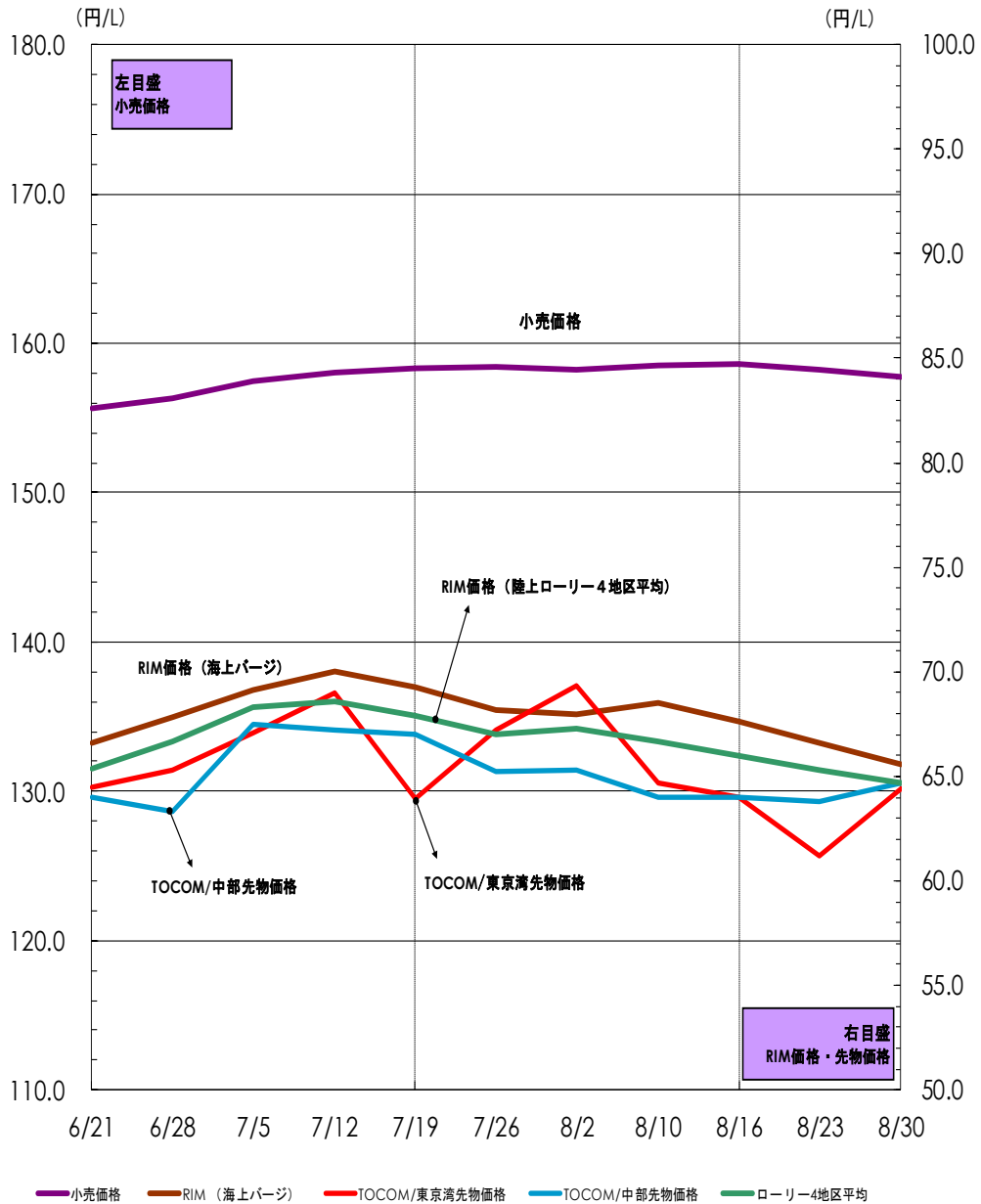
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2021/6/21 ~ 2021/8/30)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回 (2021第22号) の公表は、9/10 (金) 14:00 です。

「セルフSS出店状況」(令和3年3月末現在) は、8月25日 (水) 14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値) を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値) を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用(いわゆる4RIM価格とは異なる)。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁HPに掲載)。